

第58回  
ロカルノ国際映画祭  
審査員特別賞  
国際芸術映画評論連盟賞



# 不完全なふたり

*Un Couple Parfait*

別れを決めるとき、  
人は初めて  
愛することを  
知る。

諏訪敦彦 監督作品

Un film de Nobuhiro Suwa

ヴァレリア・ブルーニ＝テデスキ

Valéria Bruni-Tedeschi

ブリュノ・トデスキニ

Bruno Todeschini

Conception et réalisation: Nobuhiro Suwa

Image et direction artistique: Caroline Champetier

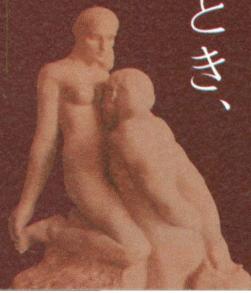
Producteurs: Masamichi Sawada, Michiko Yoshitake / Musique: Haruyuki Suzuki

Production: Comme des Cinémas / Coproduction: Bitters End

Présenté par: Bitters End et Stylejam / Distribué par: Bitters End

2005/France=Japon/couleur/108min./1:1.85/Dolby SR

[www.bitters.co.jp/fukanzen](http://www.bitters.co.jp/fukanzen)



別れを決めるとき、  
人は初めて  
愛することを  
知る。

第58回  
ロカルノ国際映画祭  
審査員特別賞  
国際芸術映画評論連盟賞

# 不完全なふたり

Un Couple Parfait

## 人を愛すること、二人で生きていくこと

マリーとニコラは結婚15年になる夫婦。彼らは友人の結婚式に出席するために、パリへやって来た。友人達からは、“理想のカップル”として見られる二人だったが、実は彼らは離婚することを決めているのだった。

二人は、パリ滞在の数日間にも、たびたび口論を繰り返す。一方、マリーはロダン美術館で、あたかも溶け合おうとする女と男を描いた彫像を見て、引きつけられる。「私たち、何をしたいの?」「何をしなかったの?」。後悔し、迷い、

傷つけあいながら、失ってしまうことに気づいた時、初めて相手の存在をより大きく感じ始めるのだった。

マリーとニコラは“不完全な二人”なのだろうか? 他人同士である女と男にとって、“完全な二人”であることは? 『2/デュオ』以来、一貫して女と男の関係を描いてきた諏訪敦彦が、“二人で生きていくこと”の難しさと素晴らしさを繊細かつ情感豊かに描く、珠玉の作品が誕生した。

## ヨーロッパで絶賛、全編フランス語ダイアログによる、諏訪敦彦最新作

『M/OTHER』『H Story』が2作続けてカンヌ映画祭に出品され、『パリ、ジュテーム』でも唯一の日本人監督として、ジュリエット・ピノシュ、ウィレム・デフォーを演出した、諏訪敦彦監督の4年ぶりの長編最新作は、オール・パリロケ、全編フランス語ダイアログによる、フランス=日本合作となった。完成された脚本を使わず、キャスト・スタッフとのディスカッションから映像を紡ぎあげる手腕は本作でも遺憾なく発揮され、女と男の心の

揺れ動きを見事に描き出している。

ヨーロッパでの諏訪敦彦の評価は圧倒的であり、ロカルノ国際映画祭では準グランプリにあたる審査員特別賞と国際芸術映画評論連盟賞をダブル受賞。フランス公開時には「沈黙に語ることを恐れない、むしろ沈黙によって豊かになっている、ショパンの夜想曲の映画版とも言うべき心揺さぶる映画」と絶賛され、3万人以上を動員するヒットを記録した。

## オゾン作品のミュージズ、ヴァレリア=ブルーニ・テデスキ ヨーロッパを代表するキャスト、スタッフが結集

マリーを演じるのは、『ふたりの5つの分かれ道』などのフランソワ・オゾン作品で知られるヴァレリア=ブルーニ・テデスキ。別れることを決めた女性の迷いと苛立ちを、セリフ、仕草、表情といったすべてで体現し、繊細かつ柔軟に演じている。相手役のニコラは、ヴァレリアと同じパトリス・シェロー門下のブリュノ・トデスキーニが“静”の演技で、“動”のヴァレリアを見事に受け止めている。

撮影は、『H Story』に続いてキャロリーヌ・シャンプティエが手掛け、二人の揺れ動く感情を光と影のなかに浮かび上がらせることに成功している。その他にも、フィリップ・ガレル、マルグリット・デュラスなどの作品で知られるドミニク・オーヴレイが編集を、クシシュトフ・キェシロフスキ『トリコロール』のジャン=クロード・ローラーが録音を手がけるなど、ヨーロッパの名匠の作品を支えるスタッフが結集している。

出演：ヴァレリア=ブルーニ=テデスキ、ブリュノ・トデスキーニ 監督/構成：諏訪敦彦 撮影/アーティスティック・ディレクション：キャロリーヌ・シャンプティエ  
プロデューサー：澤田正道、吉武美知子 音楽：鈴木治行 製作：コム・デ・シネマ、ビターズ・エンド 提供：ビターズ・エンド、スタイルジャム 配給：ビターズ・エンド  
2005年/フランス=日本/カラー/35ミリ/108分/1:1.85/ドルビーSR

[www.bitters.co.jp/fukanzen](http://www.bitters.co.jp/fukanzen)

6/30[土]より、  
★諏訪敦彦監督による、初日舞台挨拶予定  
詳細は公式HP、または劇場迄お問合せ下さい  
愛についてのロードショー!

特別鑑賞券 絶賛発売中 ¥1,500(税込) 当日一般¥1,800のところ

劇場窓口のみポストカードプレゼント(限定数)

新宿武蔵野館

新宿駅中央東口 三越裏 武蔵野ビル3F

03-3354-5670 各回入替・整理券制

[www.musashino-k.co.jp/cinema/](http://www.musashino-k.co.jp/cinema/)

